

## NPO HALOHALO インターン修了レポート

インターン期間 2017. 12 月 ～ 2018. 6 月  
二ノ丸裕貴

僕は 2017 年の 7 月末からフィリピン・マニラのアテネオ・デ・マニラ大学に留学しており、ハロハロでインターンを始めたのは留学に来てから五ヶ月ほどたったあとということになります。元々、留学期間中は大学での勉強のみではなく、インターンやボランティアなどを含めた課外活動にも力を入れようと考えた上でマニラにきたのですが、はじめから NPO ハロハロのことを知っていた訳ではありませんでした。ハロハロを知ったきっかけは、大学での学生団体などでのボランティア経験があまりにも内容が薄く形骸化しており、当該地域への影響のなさに幻滅していたときに、ハロハロサロンという NPO ハロハロの啓発イベントに参加したことです。このイベントはパヤタスのプロジェクトサイトで行われ、移動もジープやトライシクルで、地域の匂いや肌を感じる質感のようなものを直接感じられ、ここだ！と直感しました。イベントの内容そのものもよかったです。今思うとあの時の、全身で感じる地域の空気や目に見えた種々の問題がなければ、インターンを始めることはなかっただろうと思います。

インターンを始めて数週間は優秀なフィリピン人マネージャーの貧困に対する見方やソーシャル・エンタープライズとしてのビジネス戦略などを見聞きして学ぶことに必死でしたが、学問的な意味でも、あるいはビジネスセンス的な意味でも非常に価値のある時間を過ごさせてもらって、とても感謝しています。例えば現地に支社のある日本法人をターゲットにして援助してもらおうなど、小さなオフィスから地域に大きな社会的影響を与える方策が実際にとれるのはある意味で衝撃的でした。

そうして色々な経験をさせてもらった中で、自分の中で印象的であったのは日本語教室の事業に深く関わらせていただいたことです。上記のように、マニラのオフィスにいるマネージャーはフィリピン人でしたので、東京にいる代表と連絡を取りつつ、現地での運営は多くを任せさせていただきました。なおかつ日本語教室は 2017 年 1 月から事業形態を転換してのスタートだったので、運営のフローや年間のスケジュールなどの作成、毎週の授業を受けての微妙な調整などなど、非常に多くの経験をさせてもらえました。また毎週のミーティングや授業当日、あるいは資格を持った先生方とのやりとりなどでアドバイスをもらったりと、素晴らしい環境の中で働けたと思っています。

何よりもハロハロのインターンを通じては、自分の、貧困問題にアプローチしたいという信念に沿った形でインターンをするのが一番の点です。この貴重な経験を今後に生かすだけでなく、継続的にこの地域の人々と関わりを持ち、現地にも度々訪れ、微力ながら力になりたいと思っています。

